

Ⅱ その他

釧路湖陵高校コンソーシアム「チーム湖陵」

1 プロモーターメンバー

	名	称
1	北海道教育大学釧路校	
2	釧路公立大学	
3	釧路工業高等専門学校	
4	釧路短期大学	
5	釧路市役所	
6	釧路市教育委員会	
7	北海道教育庁釧路教育局	
8	鶴居村教育委員会	
9	日本銀行釧路支店	
10	気象庁釧路地方気象台	
11	北海道開発局釧路開発建設部	
12	日本放送協会 釧路放送局	
13	釧路商工会議所	
14	大地みらい信用金庫	
15	株式会社 釧路新聞社	
16	株式会社 釧路製作所	
17	釧路コールマイン株式会社	
18	大塚食品株式会社釧路工場	
19	釧路信用金庫	
20	村井建設株式会社	
21	北海道立釧路芸術館	
22	釧路市立博物館	
23	釧路根室圏産業技術振興センター	
24	国際協力機構北海道センター（帯広）	
25	釧路湖陵高校同窓会	

2 サポーターメンバー

	名	称
1	北海学園大学	
2	天使大学	
3	名寄市立大学	
4	北見工業大学	
5	札幌医科大学	
6	北星学園大学	
7	旭川医科大学	
8	藤女子大学	
9	北海道科学大	
10	獨協大学	
11	芝浦工業大学	
12	千葉工業大学	
13	日本女子大学	
14	玉川大学	
15	名古屋大学工学部・工学研究科	
16	都留文科大学	
17	国際教養大学	
18	国際基督教大学	
19	津田塾大学	
20	東京工科大学	
21	産業能率大学	
22	東京女子大学	
23	東京家政大学	
24	北里大学	
25	日本大学 芸術学部	
26	國學院大學	
27	国立民族学博物館	
28	国立アイヌ民族博物館	
29	北海道立総合研究機構	
30	公正取引委員会事務総局北海道事務所	
31	環境省北海道環境パートナーシップオフィス	

令和5年度 入学教育課程表

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校 全日制課程

学科 普通科

第1学年の
学 級 数

5

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年		3 年			計		
				文型	理型	文型	理型 α	理型 β	文型	理型 α	理型 β
国語	現代の国語	2	2						3	3	
	言語文化	2	2						2	2	
	論理国語	4		2		2			4		
	文学国語	4		2	2	2	2		4	4	
	国語表現	4									
	古典探究	4		2	2	2	2		4	4	
地理歴史	地理総合	2	2						2	2	
	地理探究	3		3	3				0~3	0~3	
	歴史総合	2	2						2	2	
	日本史探究	3		3	3	3			0~3	0~3	
	世界史探究	3		3	3				0~3	0~3	
	○ゼミナール地理	3				3	3		0~3	0~3	
	○発展日本史	3				3	3		0~3	0~3	
	○発展世界史	3				3	3	3	0~3	0~3	
公民	公共	2		2	2				2	2	
	倫理	2				2			2		
	政治・経済	2				2			2		
	○時事問題研究	3					3			0~3	
数学	数学Ⅰ	3	3						3	3	
	数学Ⅱ	4									
	数学Ⅲ	3									
	数学A	2									
	数学B	2									
	数学C	2									
	○数学研究Ⅰ	2				2			2		
	○数学研究Ⅱ	2				2			0~2		
	○KS数学Ⅰ	2	2						2	2	
	○KS数学Ⅱ	6		6	6				6	6	
理科	○KS数学Ⅲ	6					6			0~6	
	○KS数学探究	6						6		0~6	
	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2	2						2	2	
	物理	4									
	化学基礎	2		2	2				0~2	2	
	化学	4									
	生物基礎	2	2		2				2	2	
	生物	4									
	地学基礎	2		2					0~2		
保健体育	地学	4									
	○KS物理	2~5			2	2	3		0~2	0~5	
	○KS化学	2~5			2	2	4	5	0~2	5	
	○KS生物学	2~5			2	2	3	3	0~4	0~5	
	○KS地学	2				2			0~2		
	体育	7~8	2	2	2	3	3		7	7	
	保健	2	1	1	1				2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2						0~2	0~2	
	音楽Ⅱ	2									
	音楽Ⅲ	2									
	美術Ⅰ	2	2						0~2	0~2	
	美術Ⅱ	2									
	美術Ⅲ	2									
	工芸Ⅰ	2				2					
	工芸Ⅱ	2									
	工芸Ⅲ	2									
	書道Ⅰ	2	2						0~2	0~2	
書道	書道Ⅱ	2									
	書道Ⅲ	2									
	○音楽表現	2				2			0~2		
	○美術表現	2				2			0~2		
書道	○書道表現	2				2			0~2		

(裏面)

教科	科目・標準単位数	学年	1 年		2 年		3 年			計	
		類型		文型	理型	文型	理型 α	理型 β	文型	理型 α	理型 β
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3						3	3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4				4	4	
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4		4	4	
	論理・表現Ⅰ	2									
	論理・表現Ⅱ	2		2	2				2	2	
	論理・表現Ⅲ	2				2	2		2	2	
	○応用英語	2				2			0~2		
	○SS英語	2	2						2	2	
家庭	家庭基礎	2	2						2	2	
	家庭総合	4									
情報	情報Ⅰ	2									
	情報Ⅱ	2									
	○SS情報	2		2	2				2	2	
理数	理数探究基礎	1									
	理数探究	2~5									
○総合	○KQⅠ	2	2						2	2	
	○KQⅡ	1		1	1				1	1	
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30	30	30	30	89	89		
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0	0	0	0	0	0		
学校設定教科に関する科目の計		2	1	1	0	0	3	3			
総合的な探究の時間 (生き抜く力)		3~6	1	1	1	1	1	3	3		
合 計		32	32	32	31	31	95	95			
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	3	3			

卒業までに修得 させる単位数	95 単位	卒業に必要な履修 と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分	○ 1 3学期制 2 2学期制	学期の区分ごとの 単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない
1 単位時間の弾力化	○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち ()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()		
学校外における学修の単位認定	○ 1 実施している (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧) 2 実施していない		
総合的な探究の時間の実施方法	○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。		
備考	1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年文型の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年文型の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年理型の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。		

57

令和6年度 入学者教育課程表

A 表		(表 面)			第1学年の 学 級 数		4			
教育局		釧路		北海道釧路湖陵高等学校		全日制課程		学科	文理探究科	
教科	科目・標準単位数	学年	1 年	2 年	3 年	計				
		類型								
国語	現代の国語	2	2			2				
	言語文化	2	2			2				
	論理国語	4		2	2	0～4				
	文学国語	4		2	2	4				
	国語表現	4								
	古典探究	4		2	2	4				
地理歴史	地理総合	2	2			2				
	地理探究	3		3		0～3				
	歴史総合	2	2	3		2				
	日本史探究	3		3		0～3				
	世界史探究	3		3		0～3				
	○ゼミナール地理	3			3	0～3				
	○発展日本史	3			3	0～3				
	○発展世界史	3			3	0～3				
公民	公倫	2		2		3	2			
	理	2			2		0～2			
	政治・経済	2			2		0～2			
	○時事問題研究	3			3		0～3			
数	数 学 I	3	3			3				
	数 学 II	4								
	数 学 III	3								
	数 学 A	2								
	数 学 B	2								
	数 学 C	2								
	○数 学 研 究 I	2			2	0～2				
	○数 学 研 究 II	2			2	0～2				
	○K S 数 学 I	2	2			2				
	○K S 数 学 II	6		6		6				
	○K S 数 学 III	6			6	0～6				
	○K S 数 学 探 究	6			6	0～6				
理 科	科学と人間生活	2								
	物 理 基 礎	2	2	★4		2				
	物 理	4								
	化 学 基 礎	2		2	☆14	※14	0～2			
	化 学	4								
	生 物 基 礎	2	2			2				
	生 物	4								
	地 学 基 礎	2		2		0～2				
	地 学	4								
	○K S 物 理	2			2	0～2				
		5		2	3	0～5				
	○K S 化 学	2			2	0～2				
		3			3					
		5			5	0～5				
	○K S 生 物	2			2	0～2				
		4		2	4	0～4				
		5			3	0～5				
	○K S 地 学	2			2	0～2				
保健体育	体 育	7～8	2	2	3	7				
	保 健	2	1	1		2				
芸	音 楽 I	2	2			0～2				
	音 楽 II	2								
	音 楽 III	2								
	美 術 I	2	2			0～2				
	美 術 II	2								
	美 術 III	2								
	工 芸 I	2								
	工 芸 II	2								
	工 芸 III	2								
	書 道 I	2	2			0～2				
術	書 道 II	2								
	書 道 III	2								
	○音 楽 表 現	2			2	0～2				
	○美 術 表 現	2			2	0～2				
	○書 道 表 現	2			2	0～2				

教科	科目・標準単位数	学年	1 年	2 年	3 年	計
		類型				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	○応用英語	2			2	0～2
	○SS英語	2	2			2
家庭	家庭基礎	2	2			2
	家庭総合	4				
情報	情報Ⅰ	2				
	情報Ⅱ	2				
	○SS情報	2		2		2
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2～5				
○総合	○KQⅠ	1	1			1
	○KQⅡ	1		1		1
各学科に共通する各教科・科目の計			29	30	30	89
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0	0	0
学校設定教科に関する科目の計			1	1	0	2
総合的な探究の時間 (生き抜く力)			3～6	2	1	4
合 計			32	32	31	95
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3
教育課程に係るその他の事項						
卒業までに修得させる単位数			95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分		○	1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない
1 単位時間の弾力化		○	1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせで実施する。 4 その他()			
学校外における学修の単位認定		○	1 実施している 2 実施していない			
総合的な探究の時間の実施方法		○	1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。			
備考			1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。			

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和7年度 入学者教育課程表

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校 全日制課程

学科 文理探究科

第1学年の
学 級 数 4

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4		2	2	0~4
	文学国語	4		2	2	4
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3		0~3
	歴史総合	2	2	3		2
	日本史探究	3		3		0~3
	世界史探究	3		3		0~3
	○ゼミナール地理	3			3	0~3
	○発展日本史	3			3	0~3
	○発展世界史	3			3	0~3
	公民	2		2	3	2
数学	倫理	2			2	0~2
	政治・経済	2			2	0~2
	○時事問題研究	3			3	0~3
	数 学 I	3	3			3
	数 学 II	4				
	数 学 III	3				
	数 学 A	2				
	数 学 B	2				
	数 学 C	2				
	○数学研究 I	2			2	0~2
理科	○数学研究 II	2			2	0~2
	○KS数学 I	2	2			2
	○KS数学 II	6		6		6
	○KS数学 III	6			6	0~6
	○KS数学探究	6			6	0~6
	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2	2	★4		2
	物理	4				
	化学基礎	2		2	☆14	※14 0~2
	化学	4				
芸術	生物基礎	2	2			2
	生物	4				
	地学基礎	2		2		0~2
	地学	4				
	○KS物理	2			2	0~2
		5		2	3	0~5
		2			2	0~2
	○KS化学	3			3	0~3
		5			5	0~5
		2			2	0~2
保健体育	○KS生物	4			4	0~4
		5		2	3	0~5
	○KS地学	2			2	0~2
	体育	7~8	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2
	音楽 I	2	2			0~2
	音楽 II	2				
	音楽 III	2				
	美術 I	2	2			0~2
	美術 II	2				
芸術	美術 III	2				
	工芸 I	2				
	工芸 II	2				
	工芸 III	2				
	書道 I	2	2			0~2
	書道 II	2				
	書道 III	2				
	○音楽表現	2			2	0~2
	○美術表現	2			2	0~2
	○書道表現	2			2	0~2

教科	科目・標準単位数	学年	1 年	2 年	3 年	計	
		類型					
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	
	論理・表現Ⅰ	2					
	論理・表現Ⅱ	2		2		2	
	論理・表現Ⅲ	2			2	2	
	○応用英語	2			2	0～2	
	○SS英語	2	2			2	
家庭	家庭基礎	2	2			2	
	家庭総合	4					
情報	情報Ⅰ	2					
	情報Ⅱ	2					
	○SS情報	2		2		2	
理数	理数探究基礎	1					
	理数探究	2～5					
：	○Koryo Quest	1	3			3	
各学科に共通する各教科・科目の計			29	30	30	89	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0	0	0	
学校設定教科に関する科目の計			3	0	0	3	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)			3～6	0	2	1	3
合 計			32	32	31	95	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
教育課程に係るその他の事項							
卒業までに修得させる単位数			95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない	
学期の区分			○ 1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない	
1 単位時間の弾力化			○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()				
学校外における学修の単位認定			○ 1 実施している 2 実施していない				
総合的な探究の時間の実施方法			○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。				
備考	教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。						

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

主体的な学び 実践力育む

釧路湖陵高 道内初の文理探究科始動

大学や機関が助言、専用教室も

釧路湖陵高は本年度から、従来の普通科を「文理探究科」に学科転換し、「探究的な学び」を推進する。文理探究科を設置するのは、道内で初めて。生徒自らが課題を設定し、情報を収集・分析して学びを深めるのが特徴。国内外の大学や研究機関、企業など約50の団体からも学習面で助言を受ける。堀江伸校長は「生徒が知識を覚えるだけでなく、大学の進学後も見据えて研究の実践力を身につけてもらいたい」と話している。

文理探究科は、生徒の関心を踏まえた学びを進めようとする文部科学省の普通科改革の一端。釧路湖陵高で同科に入学したのは初年度160人だった。

生徒自らが学習テーマを設定する授業「総合的な探究の時間」を従来の週1回から週2回に増やす。校外でのフィールドワークも積極的に実施する。新たに独自教材「湖陵クエスト」（週1回）を設け、仮説を立て方やデータ分析、プレゼンの仕方など「学習スキル」を磨いてもらう。

生徒の学習を手助けするのは、国内の大学や企業などからなる応援団「チーム湖陵」。現時点で道教大釧路校、釧路公立大、東京工業大、国際基督教大（ICU）、日銀釧路支店や北海道開発局などが生徒の課題研究などで助言する。将来的に共同研究にも取り組みたい意向だ。

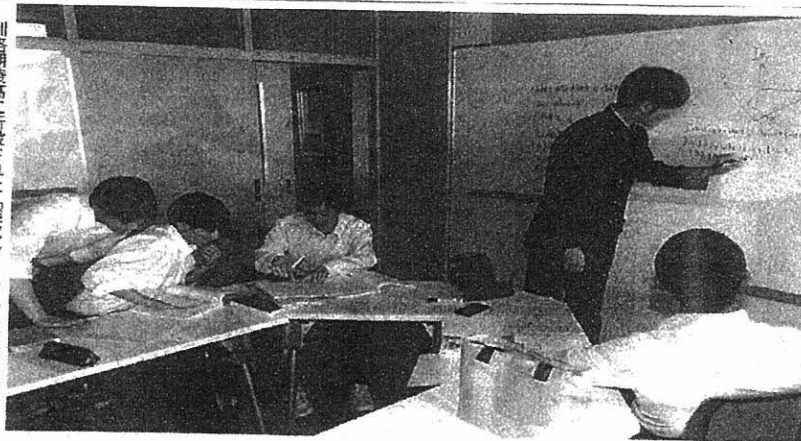
生徒が自由に研究できる場所として、空き教室を改装して「探究ルーム」も用意した。教室の正面、廊下側の壁、後ろの壁にホワイトボードを設置し、グループ

で学習に役立ててもらおう。教室は普段の授業のほか、休み時間や放課後でも利用

できるとする。

堀江校長は「生徒たちの自由な発想を育めるよう努めたい」と抱負を語った。

（上田雅寛）



釧路湖陵高に新設された「探究ルーム」。生徒が課題研究する場所になる。



カーボンニュートラルのカードゲームに挑戦する生徒ら

脱炭素 必要な行動は 釧路 湖陵高生ゲームで学ぶ

釧路湖陵高校(塙浩伸校長)で17、18の西日、カーボンニュートラルに関する出前授業が行われた。文理探究科の1年生160人がカードゲームを通して、環境問題や地球温暖化対策などについての知識を深めた。(森崎博史)

同校では、2012年に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SHS)の指定を受け、生徒自らが課題を設定、研究を重ねて成果を発表する先進的な教育を実践しており、今回の授業もその一環。

この日は、全国の学校や自治体、企業などでカーボンニュートラルやSDGsのワークショップを行う「describe with

th」(札幌市)の高橋優介代表が講師として来校。

高橋氏は、温暖化により地球規模で気候変動が進んでいる現状を紹介し「このままでは普通の生活すらできなくなる。温室効果ガスの排出を実質ゼロとする『カーボンニュートラル』に取り組む必要がある」と強調した。

その後、生徒らは1組2〜4人を1グループとし、政府や金融機関、商社やIT企業など12グループでカーボンニュートラルを目指すカードゲーム「2050カーボンニュートラル」に挑戦。ゲームを通して、どのような行動が必要なのかなどについて学んだ。

中越蒼介さん(15)は「カーボンニュートラルは最初難しく感じたが、カードゲームで身近に感じることができた。とても大事なことでと理解できたので、微力ながら自分も取り組んでいきたい」と話していた。

研究テーマの広げ方、まとめ方は？

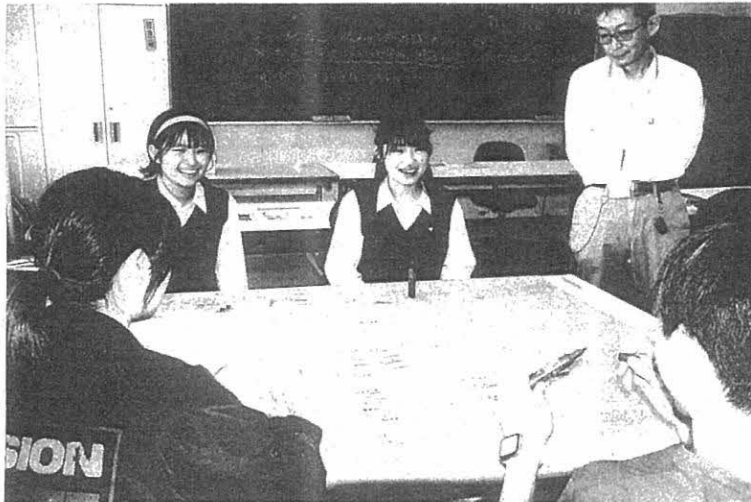
釧路湖陵高生 大学、高専に学ぶ

釧路湖陵高は本年度から本格導入している独自の探究科目の一環で、生徒が市内の大学などで研究方法を学ぶ研修を行った。参加者はグループごとに学生らと交流し、課題設定やデータの集め方、発表の工夫について理解を深めた。

同校は本年度から、これまで普通科を「文理探究科」に転換。グループごとに研究テーマを設定し、学習を進める「総合的な探究の時間」を週1回から2回に増やした。研究に必要なスキルを磨く独自科目「湖陵クエスト」も本格始動した。湖陵クエストは現在の普通科2年生も昨年度から試験的に取り入れている。11日に行った研修もこの一環で、2年生198人が参加。生徒はグループのテーマに応じて、道教大釧路校、釧路公立大、釧路高専の3会場に分かれて指導を受けた。

各大学では生徒が戦国武将の織田信長の人物像などについて研究課題を発表し、大学教授から課題設定やテーマの広げ方について助言を受けた。釧路公立大で研修に参加した鮎川薫さん(16)は、1940年から41年にかけて作文教育を進めていた道内の教員が逮捕された弾圧事件「北海道綴方教育連盟事件」を今後取り上げる予定で、「テーマのまとめ方がわからなかったが、アドバイスをもらってスッキリした」と話した。釧路高専では理系分野に関心のあるグループ

教授らの助言受け「スッキリ」



高専生とまちづくりについて話し合う釧路湖陵高の生徒

が、電気工学、建築など各分野の研究室を見学。高専生から卒業研究の紹介を受けたほか、データの集め方や実験機器の使

い方を学んだ。高専の大塚友彦校長は「思うような成果が出なくても、研究の途中で学ぶことが最も大切」と激励。釧路湖陵の塙浩伸校長は「生徒が大学生になったとき、研修が役に立ったと思うてもらえたら」と話した。(三島七海)

湖陵高生 伸ばす自主研究力

文理探究科 進学見据え

釧路湖陵高は、普通科の文理探究科への学科転換に合わせ、生徒が自主的に研究を進められる技能を身につける授業を本年度から始めた。情報収集や分析方法などの基礎知識を学ぶ「湖陵クエスト(KQ)」と、結果をまとめて発表する「総合的な探究の時間」を組み合わせて、多様化する入試や進学後の研究に対応できる生徒の育成を目指す。ただ、生徒が幅広い研究テーマに取り組むために、専門知識を持つ指導者の確保が課題となっている。

「関係する論文を読んで、研究の進め方の道筋を考えてみる」。7月に釧路公立大で開かれたKQの授業。参加した2年生が同大教授の言葉に耳を傾けた。

授業は同大のほか、道大釧路校、釧路高専でも同日に開催。生徒は取り組む研究テーマごとに



湖陵高の文理探究科は、文部科学省の普通科改革の一環で2022年から設置可能となった新しい普通科3タイプのうち、大学などと連携して学びを深める「学際領域学科」にあたる。5月時点で導入しているのは、全国で同校と兵庫県立御影高、福岡県立八幡高の

全国で3校 幅広い分野 企業・大学の助言必要



「湖陵クエスト(KQ)」と総合的な探究の時間を通して、研究課題を探る文理探究科の1年生

3校のみだ。学科転換に合わせ、湖陵高は独自のKQと総合的な探究の時間を組み合わせて、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせるカリキュラムを作成。本年度はこれまでに、経済産業省などによる地域経済分析システムを活用する実習や、市立博物館の学芸員を招いた講座を開いた。2年の青田実優さん(16)は「授業を受け、自分で

研究を進める大学生活の予行練習になる」と実感している。同校が独自科目に力を入れる背景には、大学入試の多様化がある。最近

は、多くの大学が学力重視の一般試験以外に、総合型(旧AO入試)や学校推薦型を採用。特に総合型では、校内外での学習成果や研究発表などの活動実績も評価の対象となる。大学進学率が約99%

の同校にとって、在学中の研究活動が進学先の選択肢を広げることにつながるという。ただ、生徒が自主的に課題を設定して、研究を進めるためには、普通の高校では扱わない幅広い分野に対応する指導者が必要になる。釧路市周辺には大学など多くの研究者を抱える高等教育機関が少なく、文理探究科1年の学年主任の多田昌弘

(三島七海)



北海道経済産業局長賞を受賞した生徒ら

「地方創生☆政策アイデアコンテスト」 湖陵高3チーム最高賞

釧路

品に与えられた同賞を受賞した。

11月26日には、同産業局

齋藤正憲総務企画部長らが

同校を訪れ、生徒らに表彰

状を手渡した。生徒らはそ

れぞれの政策を発表し、ふ

るさと納税額の向上や、地

元産品の発信などによる経

済活性化プランを訴えた。

全国大会に出場するのは、

中上心優さん(16)、

種市花音さん(同)、福田

聖真さん(15)、横堀心暖

さん(同)のチーム。「羅

白ちゃんねる」ふるさと納

税で『鱈ふく』食べよう！

〜羅臼の海から絶品お届け

〜」をテーマに、羅臼町の

新たなふるさと納税返礼品

を考案し、経済活性化や観光

客、人口増加につなげる政

策を提案した。全国大会に

向け「まだ時間があるので、

さらにブラッシュアップし

て、少しでも良い賞を取れ

るように頑張りたい」と意

釧路湖陵高校(瑞穂伸校長)文理探究科1年の3チーム12人が、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2024」北海道ブロックで、最高賞となる北海道経済産業局長賞に輝いた。このうち1チームは12月7日に東京都で開催される、同全国大会への出場を決めた。

(森崎博史)

1チーム全国へ

同コンテストは、地域の課題についてテーマを設定し、解決策となる政策アイデアを提案するもの。同校の3チームは、1チーム4人で「高校生・中学生以下の部」に参加。全道から51作品の応募がある中、4作

生徒の研究に専門的助言

釧湖陵高 企業担当者ら招き授業



釧路湖陵高は市内の企業や公共機関、大学の担当者ら招いて、生徒の研究活動に専門的なアドバイスをもたらす独自の授業を行った。普通科2年生197人が参加し、2月1日の成果発表に向けて、論理展開を見直した。

授業は21、23の両日、1時間ずつ実施した。同校の独自科目「湖陵クエスト（KQ）」の一環。生徒がグループごとに進める研究に対し、釧路市立中央図書館や北海道教育大釧路校、釧路信金など計16の機関・企業の担当者が助言した。

正しいゴミの分別を促

そうと、ゴミ箱の設置やゴミを使った工作イベントを実施した成果をまとめたグループは、「コストも示した方がいい」とアドバイスを受けていた。同校2年の戸田百音さん（17）は「自分たちの活動に興味を持ってもらい、大人の視点から意見をもらえてうれしかった」と話した。

1日は全校生徒や他校の教職員に向けて「探求成果発表会」を行う。

（三島七海）

探究発表へ事前指導

釧路湖陵高 地元建設業ら招く

釧路湖陵高校（堀浩伸校長）普通科の2年生197人は23日、地元建設業や釧路市中央図書館職員ら9人を招き、2月1日に予定している「探究成果発表会」の事前指導を受けた。

同校は2022年度に文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革支援事業」に指定され、探究的な

学習活動に重点を置いた教育活動を展開している。同発表会を前に生徒らは、3～6人を1グループとし「血液の未来」や「釧路の災害危険性」「多様性理論について」など、自らテーマを設定し、昨年6月から探究活動が続けている。

この日生徒らは、各グループに分かれ、最終発表に



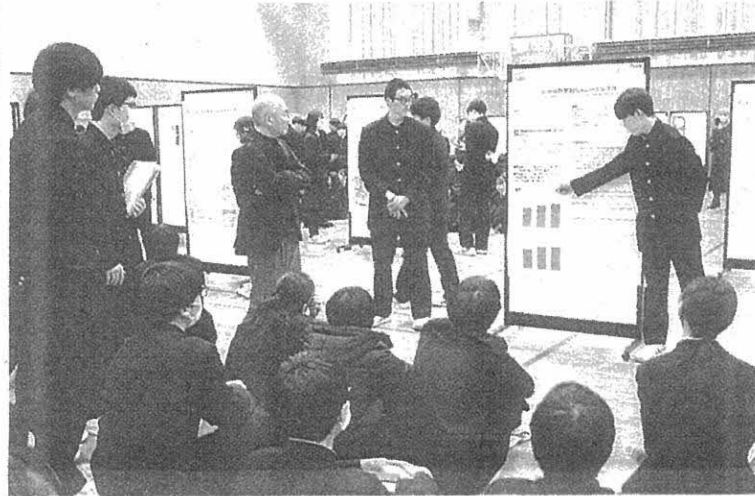
講師（右）に相談する生徒ら

向けた資料などを講師に提示し、アドバイスをもらった。

た。このうち新井田珀（17）さんのグループは「湖陵生限定のSNSアプリ作成及びその効果」の探究テーマについて相談。広い視野を持つことなどの助言をもらったとし「外部講師の意見はとても参考になった。発表までにブラッシュアップしていきたい」と話していた。（森崎博史）

理科や歴史 見聞深める

釧湖陵高生が研究成果発表



釧路湖陵高校（塙浩伸校長）で1日、生徒たちが理科や歴史などさまざまな分野で課題研究や探究活動を進めてきたスーパーサイエンスハイスクールの成果発表会が開かれ、69項目の成果を披露した。教師や教育関係者らが見守る中、生徒同士がその発表内容を見聞きし、質問を加えながら発表されたテーマについて理解を深めていた。

この日の発表会では、テーマ別に組み合わせた生徒たちが大きな模造紙に発表内容をポスター形式にまとめた資料を掲示し、7分間の持ち時間で説明。さらに3分間の質問タイムが設けられ、熱心な成果発表が行われた。

「野菜がよく育つ肥料を見つけよう」という研究では、リン酸とカルシウムを含むベーキングパウダーを

自分たちが取り組んできた研究成果を発表する生徒たち

レイアウト・河村 佳徳
土に加えた成果を発表。歴史の分野では織田信長の天下統一で、本能寺の変がなかった場合に起こると思われる戦いを検証するなど、課題はさまざま。

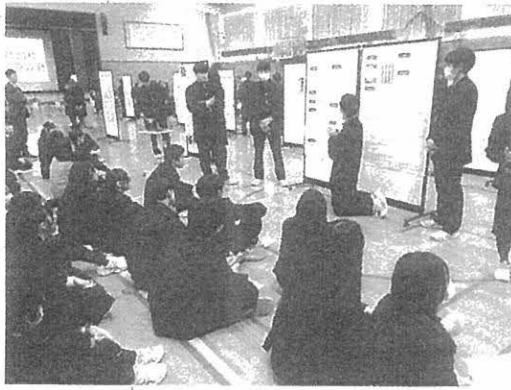
塙校長は「研究課題が多岐にわたっているので、エネルギーの分野や金融のことなどそれぞれの専門的な分野での研究では市内の企業の協力を得られたことは大きかった」と地元企業と連携して取り組んだことが大きな成果と指摘。さらに「生徒たちが研究成果を自分の言葉で発表できたことは今後に生かされていくだろう」と話していた。

（伊東義晃）

釧路湖陵高 SSH成果発表会

探究活動さらなる充実を

ポスターセッションなど



【釧路発】文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受けている釧路湖陵高校（塙浩伸校長）は1日、同校でSSH成果発表会を開催した。普通科、理数科

さらなる質向上に向け意欲を高めた。

同校は、5年度からSSHの第3期事業を推進。「よりよい未来を共創する科学技術イノベーション」に求められる「Kor

ポスター発表で学習の成果を披露した

yo Agency」を育成するプログラムの研究開発」と題して研究を進めている。

一方、4年度からは文科省「新時代に対応した高校改革推進事業」（普通科改革支援事業）の指定を受け、本年度、普通科新学科の文理探究科を開設するとともに、理数探究科を設置。コンソーシアムによる支援のもと、総合的な探究の時間と教科等をつなぎ付けた探究的な学習を推進している。

発表会では、普通科51グループ、理数科11グループがそれぞれの課題研究などの成果をポスターで発表。普通科は総合的な探究の時間と学校設定科目「Kor yo Quest（KQ）Ⅱ」で行った探究活動、理数科は「KCS探究」の内

容を説明した。

生徒たちは、大学や高専でのアカデミックインターシップ、コンソーシアムやSSHおよび普通科改革支援事業運営指導委員の助言を受けて探究した成果を披露した。

また、文理探究科は内閣府「地方創生☆政策アイデアコンテスト2024」全国大会でさとふる賞を受賞した取組やカナダへの留学体験、理数探究科は釧路湿原巡検で得た知識などについて口頭発表を行った。

講評に立ったSSH運営指導委員は「前年度よりも確実にレベルアップしている。そのポテンシャルをもつてすれば高いレベルの課題を解決できるはずなので、より一層頑張ってほしい」と、生徒たちのさらなる研鑽を期待した。

発表会終了後に運営指導委員会

発表会終了後には、運営指導委員会を開催した。委員らは、事業の指定期間終了後も課題研究のさらなる質向上と生徒の変容の把握、SSH事業の評価法などについて次年度の中間ヒアリングにおいて大切なことを確認した。

探究チャレンジ・アジア受賞校発表概要⑤

道教委教育長賞

釧路湖陵

釧路湖陵高校（端浩伸校長）

長は、英語による発表で各審査員の総合計点において最も高い評価を受けた学校が選ばれた道教委教育長賞（英語発表部門）に輝いた。同校では、適切なごみ分別をより楽しく促進するため、自分たちでデザインしたごみ箱の試作品を製作。試作品の試運転を校内で行い、オリジナルごみ箱でのごみ分別促進効果を検証した。

発表概要はつぎのとおり。

◆探究テーマ「みんなで分別ノミナでエコロジック誘導の魔法にかかけられて」

▼発表要旨

私たちは、ごみを適切に分別することでCO2排出

量を削減することができると。そこで、フィールドワークやナッジ理論などを通じて、日常生活でのごみ分別を環境のために推進していきたいと考えている。

近年、環境問題が深刻化しており、持続的な未来のためその解決に向けた行動を起こす必要がある。日本はCO2排出量の国別ランキングで第4位に位置しており、また世界の1



ごみ分別促進効果を検証した



道教委教育長賞を受賞

人当たり平均CO2排出量が4・86tであるのに対し、日本の平均は8・04t。これらの事実から、リサイクル可能なごみを増やし、プラスチック製品の生産を減らすことで、CO2排出量を削減することを目指し、日常生活でのごみ分別を推進していきたいと考えている。

▼方法

私たちの目標は、ナッジ理論を活用したごみ箱や小生計向けの廃材アートワークショップを通じて、適切なごみ分別をより楽しく促進すること。最初に、釧路市の高山廃棄物処理施設を訪問し、地域の分別システムについて学んだ。

その後、釧路公立大学で誤解を特定するための調査を行い、自分たちでデザインしたごみ箱の試作品を製作した。

▼結果

私たちの製作した、オリジナルごみ箱の試運転を学校内で行い、通常、生徒が使用するごみ箱の使用状況と比較したところ、通常のごみ箱では分別できていなかったペットボトルが約70本あるのに対し、オリジナルごみ箱の分別状況としては、分別できていないものがたった1本だった。ナッジ理論の使用もあり、オリジナルごみ箱でのごみ分別促進の効果が実証できた。

▼結論

目標を達成するための「正確なごみ分別」という方法は私たちの実験、調査によって、有効性が実証された。

▼参考文献

「世界の統計2024」総務省統計局、総務省データcommons2020

れており、推進すべき活動である。さらに、別のものや発展したナッジ理論を使用することで学生間や若い世代でのさらなるごみ分別の促進が期待できると言える。

▼今後の課題

ごみ箱の耐久性やコストを鑑みて、素材の改善や代用を検討中。また、これからは、私たちのこの「ごみ分別促進」という活動やオリジナルごみ箱の存在を若い世代や、多くの方に知ってもらいたいことを目標とし、最終的にはいろいろな場所で活用できるようにしていきたい。

投票型ゴミ箱 市長に提案

湖陵高生 分別促す仕組み自作

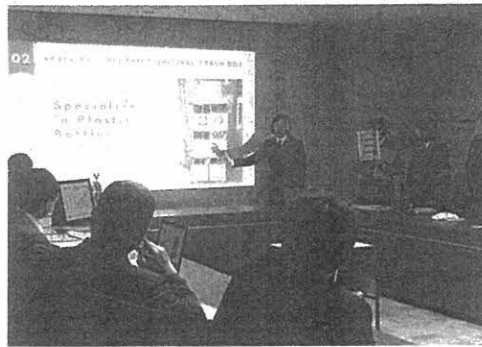
校内やJR駅で実績、道知事賞も

釧路湖陵高2年生の探究活動グループが、廃棄物の分別回収を市内で進める活動に取り組んでいる。ペットボトルのリサイクル率を高めて、ゴミ排出量を減らすと、JR釧路駅内に分別を促す自作のゴミ箱を設置。鶴間秀典市長には、市の公共施設での分別ゴミ箱設置を提案した。

グループは同校独自の探究授業「湖陵クエスト」の研究班4人。昨春、釧路広域連合清掃工場を見学した際、リサイクルできずの資源ゴミが、燃えるゴミとして処分されている現状などに着目した。4人はより良い選

択を自発的に促す「ナッジ理論」を活用した投票型のゴミ箱を考案。「1日10時間働くが週休4日」「1日5時間働くが週休1日」のどちらが理想か、といった二択の質問を掲示し、ペットボトルのキャップを外すな

どして解答することで、能動的に分別廃棄を促す仕組みだ。校内に設置したところ、9割以上が正しく分別されたという。1月にはJR釧路駅に自作の投票型ゴミ箱を設置。釧路市子ども遊学館で、ペットボトルを使っ



市役所でナッジ理論を活用した投票型ゴミ箱を説明する研究班のメンバー

た小学生向けの工作ワークショップも開催した。こうした活動が評価され、高校生のアイデアを募る複数のコンテストで、北海道教育長賞や道知事賞などを受けた。

12日には釧路市役所を訪れ、鶴間市長や市職員らを前に、一連の活動を紹介。市の運営する公共施設で試験的に投票型ゴミ箱を設置することを提案した。鶴間市長は「今年中に設置できるようにしたい」などと前向きな姿勢を示した。焼却するゴミの量が減れば、地球温暖化抑止策の二酸化炭素排出量削減にも結びつく。同校2年の戸田百音さん(17)は「ゼロカーボンシティーの実現につながれば」と話していた。

(三島七海)

釧湖陵高が道教委教育長賞

探究チャレンジ・アジア 市役所で受賞報告

2024年度「探究チャレンジ・アジア」(北海道教育委員会主催)の道教委教育長賞(英語発表部門)で入賞した釧路湖陵高校2年の研究チーム、戸田巨直さん(1)、東雲緒々さん(同)、溝邊希華さん(同)、工藤杏葉さん(同)が12日、釧路市役所を訪れ、鶴間秀典市長に受賞報告した。(長谷川理美)

同大会は、生徒が取り組んだ探究活動の成果発表と交流を通じて、情報活用、問題発見や解決能力などを育成することが狙い。今年度は道内と海外から33校が参加し、同チームは「社会との共創」推進プロジェクト

のグローバル型に出場した。この日は、生徒4人が受賞報告後、大会で発表した3つの分別に関する探究活動について英語でプレゼンテーションした。釧路市のこみ処理所見学で「酸化炭素(CO2)排

出量、釧路公立

大学でこみの分別調査の結果などをまとめた内容で、小さなきっかけで人の行動を変える「ナッジ理論」を利用したオリジナルこみ箱も発表。最後に市内施設でこの探究活動を検証実験するよう求めた。鶴間市長は「目指しているものが高く素晴らしい発表。ぜひ今年から挑戦してみる」と話した。



チームリーダーの戸田さんは「賞を取ることを目標に仲間と頑張ってきた。皆さんに受賞報告できてうれしい」と安堵しながら、「市長から挑戦してみるという声をいただけて良かった」と笑顔を見せた。

.....
鶴間市長に受賞を報告した生徒4人